

# 道徳科に求められる評価

文部科学省初等中等教育局教育課程課  
教科調査官 堀田 竜次



独立行政法人教職員支援機構

はじめに

- 1 評価の意義と評価の基本的態度
- 2 道徳科における児童生徒の評価
- 3 授業に対する評価

おわりに

はじめに

**観点** 教師

教師が指導の目標や計画、指導方法の改善・充実に取り組むための資料となるもの

児童生徒 **視点**

自らの成長を実感し意欲の向上につながるもの

**指導に生かされ、児童生徒の成長につながる評価**でなくてはならない。

**指導と評価の一体化**

# 1 評価の意義と評価の基本的態度

---

# 1 評価の意義と評価の基本的態度

## 評価の意義

児童生徒のよい点や進歩の状況などを積極的に評価し、学習したことの意義や価値を実感できるようにすること。また、各教科等の目標の実現に向けた学習状況を把握する観点から、単元や題材など内容や時間のまとまりを見通しながら評価の場面や方法を工夫して、学習の過程や成果を評価し、指導の改善や学習意欲の向上を図り、資質・能力の育成に生かすようにすること。

小・中学学習指導要領「第1章 総則」の「第3 教育課程の実施と学習評価」の2の(1)

# 1 評価の意義と評価の基本的態度

## 評価の意義

創意工夫の中で学習評価の**妥当性**や**信頼性**が高められるよう、**組織的かつ計画的な取組を推進**するとともに、学年や学校段階を越えて児童生徒の学習の成果が円滑に接続されるように工夫すること。

小・中学学習指導要領「第1章 総則」の「第3 教育課程の実施と学習評価」の2の(2)

# 1 評価の意義と評価の基本的態度

## 道徳科における評価の基本的態度

道徳科は、道徳教育の目標に基づき、各教科、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動における道徳教育と密接な関連を図りながら、計画的、発展的な指導によって**道徳性を養うことがねらい**である。

道徳性とは、人間としてよりよく生きようとする人格的特性であり道徳的判断力、道徳的心情、道徳的実践意欲及び態度を諸様相とする内面的資質である。このような道徳性が養われたか否かは、**容易に判断できるものではない**。

しかし、道徳性を養うことを学習活動として行う道徳科の指導では、その**学習状況や成長の様子**を適切に把握し**評価することが求められる**。

## 2 道徳科における児童生徒の評価

---



## 2 道徳科における児童生徒の評価

### 道徳科の目標

第1章総則の第1の2の(2)に示す道徳教育の目標に基づき、**よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を(広い視野から)多面的・多角的に考え、自己の(人間としての)生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。**

小・中学校学習指導要領 第3章 特別の教科 道徳

## 2 道徳科における児童生徒の評価

### 学校教育における道徳性の捉え方

#### 道徳的判断力

それぞれの場面で善悪を判断する能力

#### 道徳的心情

道徳的価値の大切さを感じ取り、善を行うことを喜び、悪を憎む感情

#### 道徳的実践意欲

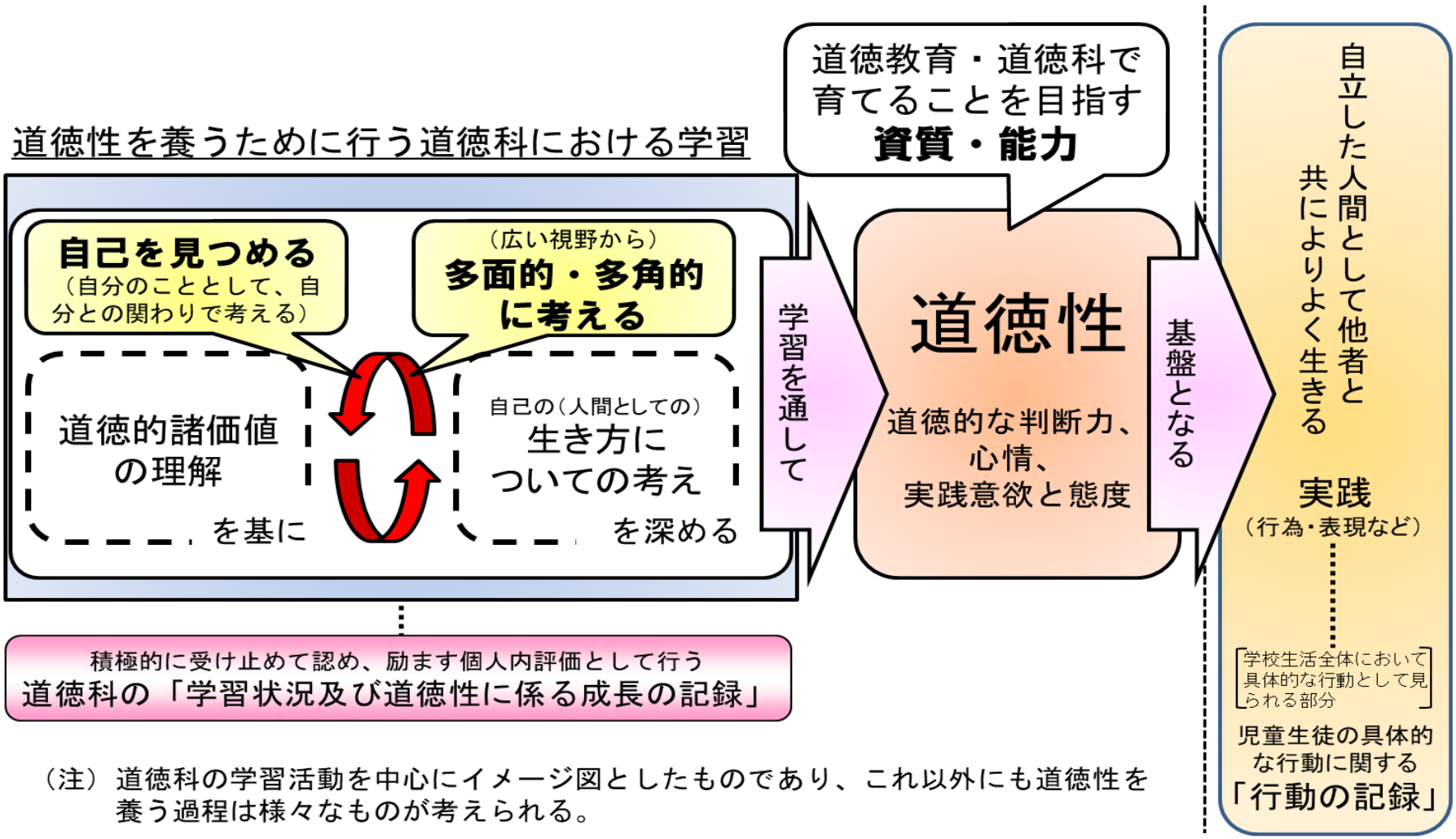
道徳的判断力や道徳的心情を基盤とし道徳的価値を実現しようとする意志の働き

#### 道徳的態度

道徳的判断力や道徳的心情に裏付けられた具体的な道徳的行為への身構え

# 2 道徳科における児童生徒の評価

## 道徳科の学習活動と評価のイメージ



(注) 道徳科の学習活動を中心にイメージ図としたものであり、これ以外にも道徳性を養う過程は様々なものが考えられる。

## 2 道徳科における児童生徒の評価

### 道徳科における児童生徒の評価

児童生徒の学習状況や道徳性に係る成長の様子を継続的に把握し、指導に生かすよう努める必要がある。ただし、数値などによる評価は行わないものとする。

小・中学校学習指導要領「第3章 特別の教科 道徳」の「第3 指導計画の作成と内容の取扱い」の4

## 2 道徳科における児童生徒の評価

### 道徳科に関する児童生徒の評価の基本的な考え方

道徳性の諸様相である道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度のそれぞれについて分節し、学習状況を分析的に捉える**観点別評価を通じて見取ろうとすることは、児童生徒の人格そのものに働きかけ、道徳性を養うことを目標とする道徳科の評価としては妥当ではない。**

授業において児童生徒に考えさせることを明確にして、**目標に掲げる学習活動における児童生徒の具体的な取組状況**を、一定のまとまりの中で、児童生徒が学習の見通しを立てたり学習したことを振り返ったりする活動を適切に設定しつつ、**学習活動全体を通して見取る**ことが求められる。

**個々の内容項目ごとではなく、大きくりなまとまりを踏まえた評価**とすることや、他の児童生徒との比較による評価ではなく、**児童生徒がいかに成長したかを積極的に受け止めて認め、励ます個人内評価**として記述式で行うことが求められる。

**内容項目について単に知識として観念的に理解させるだけの指導や、特定の考え方に無批判に従わせるような指導であってはならない。**

道徳科の学習状況の評価に当たっては、**道徳科の学習活動に着目し、年間や学期といった一定の時間的なまとまりの中で、児童生徒の学習状況や道徳性に係る成長の様子を把握する**必要がある。

**道徳科の目標に明記された学習活動に着目して評価を行う。**

道徳科の評価は**調査書には記載せず**、入学者選抜の合否判定に活用することのないようにする必要がある。

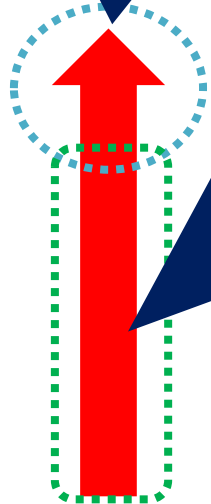
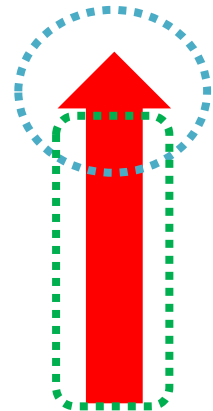
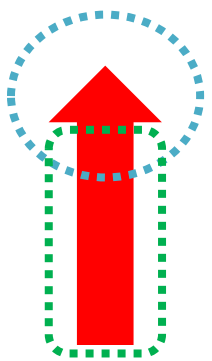
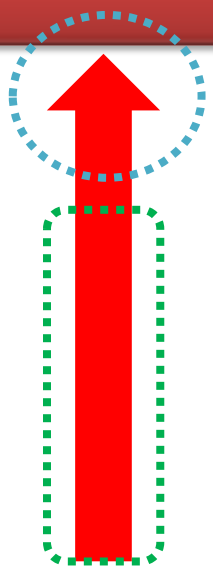
## 2 道徳科における児童生徒の評価

成長を受け止めて認め、励ます **個人内評価**

道徳的価値の理解を基に、道徳性の諸様相を育てること

評価規準はなく、達成度は評価できない

### 道徳科の授業のねらい



評価するのは児童の学びの姿

## 2 道徳科における児童生徒の評価

・ねらいとする道徳的価値について、道徳性の諸様相が育っているか。

評価するのは困難

・ねらいとする道徳的価値が理解できたか。

理解することを目的として評価する他の教科等とは異なる

### 道徳的諸価値の理解に基づく

・より**多面的・多角的**な見方へと発展しているか。

・道徳的価値の理解を**自分自身との関わり**の中で深めているか。

**自己の(人間としての)生き方について考えを深める**

これらの点を重視し、道徳科の学習活動に着目して評価する。

## 2 道徳科における児童生徒の評価

個人内評価として見取り、記述により表現することの基本的な考え方

一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展させているかどうか

- ・ 道徳的価値に関わる問題に対する判断の根拠やそのときの心情を様々な視点から捉え考えようとしている
- ・ 自分と違う立場や感じ方、考え方を理解しようとしている
- ・ 複数の道徳的価値の対立が生じる場面において取り得る行動を多面的・多角的に考えようとしている

など



## 2 道徳科における児童生徒の評価

### 道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているかどうか

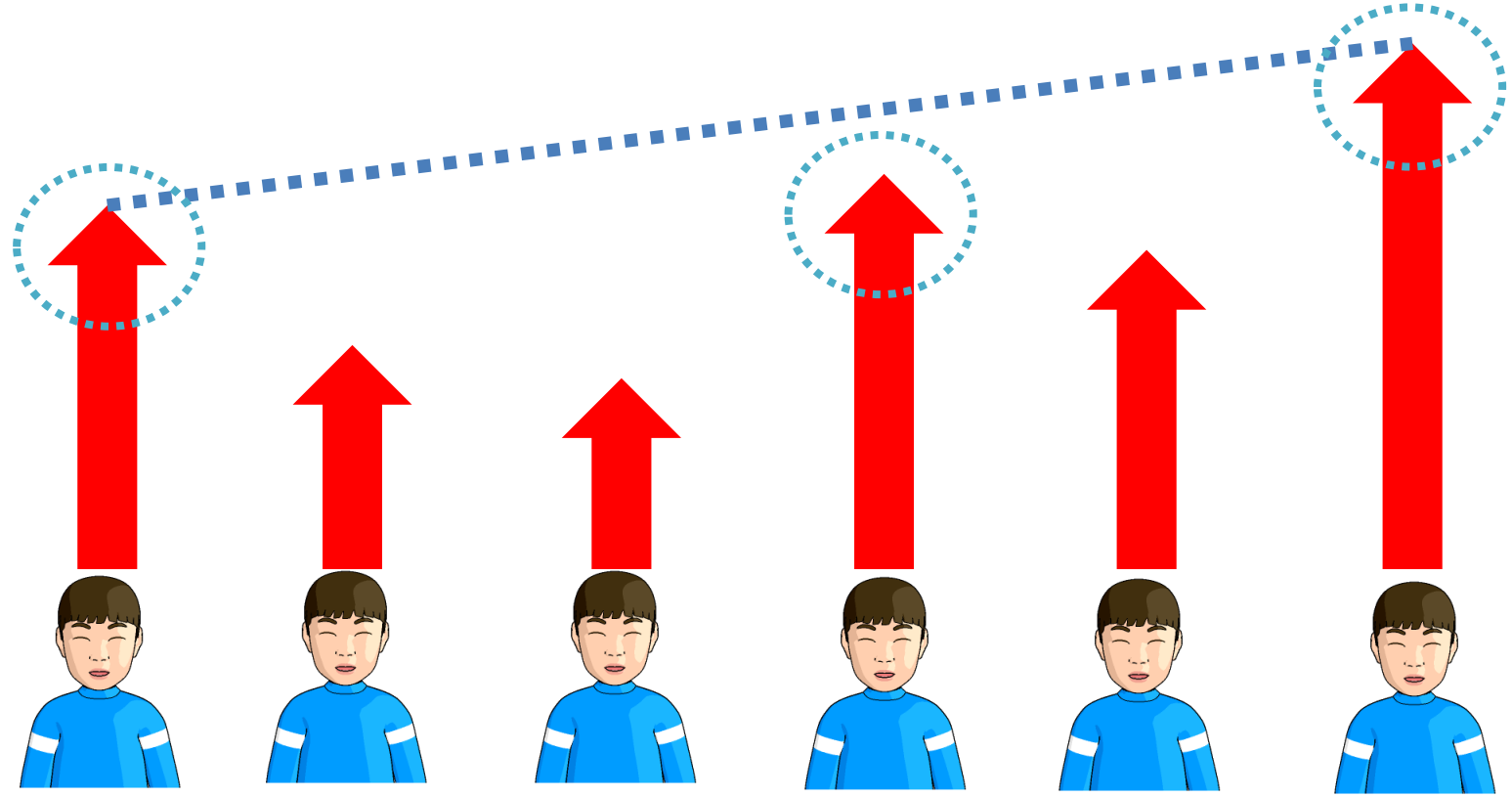
- ・ 読み物教材の登場人物を自分に置き換えて考え、自分なりに具体的にイメージして理解しようとしている
- ・ 現在の自分自身を振り返り、自らの行動や考えを見直していることがうかがえる部分に着目している
- ・ 道徳的な問題に対して自己の取り得る行動を他者と議論する中で、道徳的価値の理解を更に深めている
- ・ 道徳的価値の実現することの難しさを自分のこととして捉え、考えようとしている

など

## 2 道徳科における児童生徒の評価

個々の内容項目ごとではなく、**大きく**なまとまりを踏まえた評価

- 第1回
- 第2回
- 第3回
- 第4回
- 第5回
- 第6回



学習状況や道徳性に係る成長の様子を**継続的に**把握

## 2 道徳科における児童生徒の評価

発言が多くない児童生徒や考えたことを文章に記述することが苦手な児童生徒が、教師や他の児童生徒の発言に聞き入ったり、考えを深めようとしたりしている姿に着目するなど、**発言や記述ではない形で表出する児童生徒の姿に着目する**ということも重要である。

## 2 道徳科における児童生徒の評価

### 評価のための具体的な工夫例

- ・ 児童生徒の学習の過程や成果などの記録を計画的にファイルに蓄積したもの
- ・ 児童生徒が道徳性を養っていく過程での児童生徒自身のエピソードを累積したもの
- ・ 作文やレポート、スピーチやプレゼンテーションなど具体的な学習の過程
- ・ 児童生徒が行う自己評価や相互評価 等

## 2 道徳科における児童生徒の評価

### 組織的、計画的な評価の推進例

- ・ 学年ごとに評価のために集める資料や評価方法等を明確にしておく
- ・ 評価結果について教師間で検討し評価の視点などについて共通理解を図ること
- ・ 評価に関する実践事例を蓄積し共有すること

妥当性

信頼性

自信

負担感軽減

## 2 道徳科における児童生徒の評価

発達障害等のある児童生徒や海外から帰国した児童生徒、日本語習得に困難のある児童生徒等に対する配慮

- ・ 発達障害等のある児童生徒
- ・ 海外から帰国した児童生徒
- ・ 日本語習得に困難のある児童生徒 等

### 3 授業に対する評価

---

### 3 授業に対する評価

#### 道徳科の学習指導過程や指導方法に関する評価の観点の例

- ア 学習指導過程は、道徳科の特質を生かし、道徳的価値の理解を基に自己を見つめ、自己の（人間としての）生き方について考えを深められるよう適切に構成されていたか。また、指導の手立てはねらいに即した適切なものとなっていたか。
- イ 発問は、児童（生徒）が（広い視野から）多面的・多角的に考えることができる問い、道徳的価値を自分のこととして捉えることができる問いなど、指導の意図に基づいて的確になされていたか。
- ウ 児童（生徒）の発言を傾聴して受け止め、発問に対する児童（生徒）の発言などの反応を、適切に指導に生かしていたか。
- エ 自分自身との関わりで、物事を（広い視野から）多面的・多角的に考えさせるための、教材や教具の活用は適切であったか。
- オ ねらいとする道徳的価値についての理解を深めるための指導方法は、児童（生徒）の実態や発達段階にふさわしいものであったか。
- カ 特に配慮を要する児童（生徒）に適切に対応していたか。



### 3 授業に対する評価

## 授業に対する評価の工夫例

### ア 授業者自らによる評価

授業者自らが記憶や授業中のメモ、板書の写真、録音、録画などによって学習指導過程や指導方法を振り返る。

### イ 他の教師による評価

授業を公開して参観した教師から指摘を受けたり、ティーム・ティーチングの協力者などから評価を得たりすることも重要である。

おわりに

**観点** 教師

教師が指導の目標や計画、指導方法の改善・充実に取り組むための資料となるもの

児童生徒 **視点**

自らの成長を実感し意欲の向上につながるもの

**指導に生かされ、児童生徒の成長につながる評価**でなくてはならない。

**指導と評価の一体化**

おわりに

---

「学校での学び」、  
「授業での学び」を、

**児童生徒の未来につながる**

ものに！

# 道徳科に求められる評価

文部科学省初等中等教育局教育課程課  
教科調査官 堀田 竜次



独立行政法人教職員支援機構